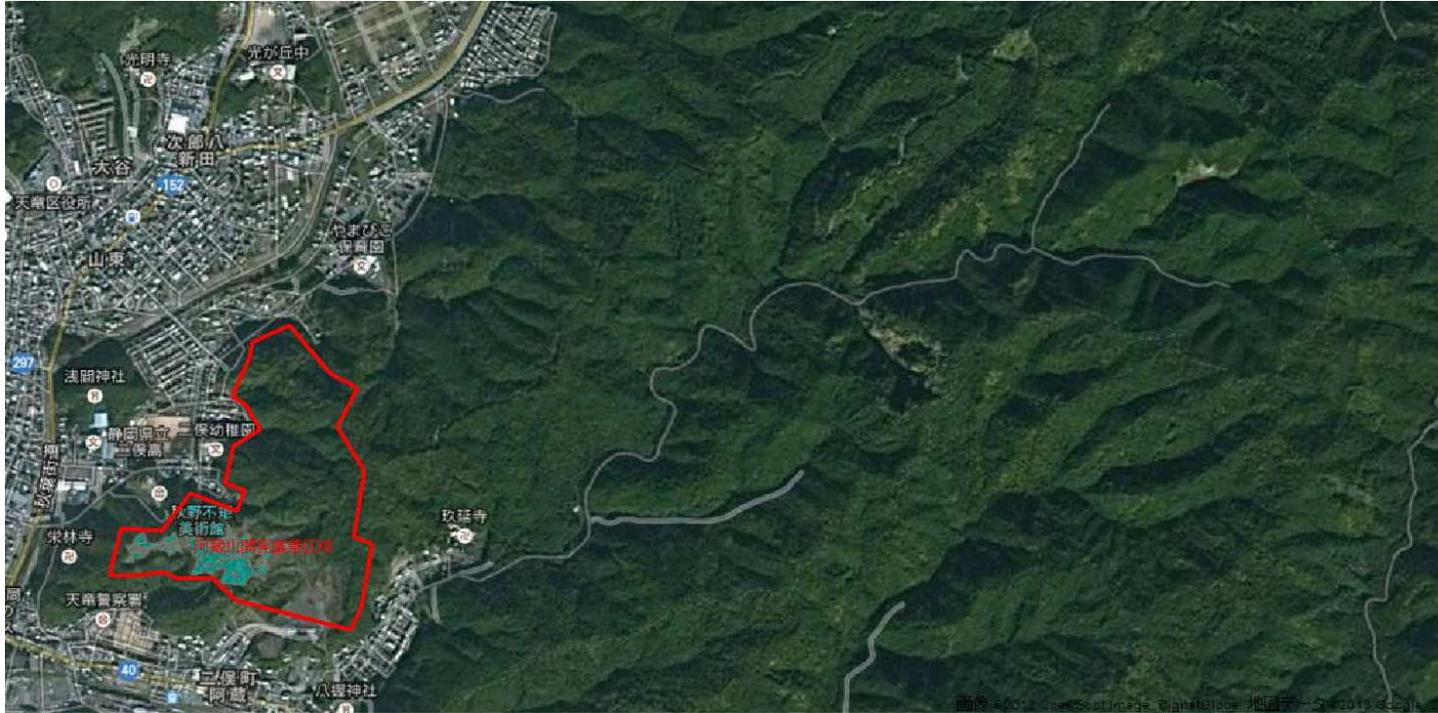


阿蔵山自然環境配慮について

平成26年1月31日
浜松市危機管理課

1 阿蔵山の現況



(1) 阿蔵山及び周辺の自然環境

- ①北東へ連続する丘陵地（森林）の先端に位置する。
- ②森林は概ね杉・ヒノキの植林とコナラ・シイ等の二次林により構成される。
- ③基盤岩である軟岩の上に天竜川起源の段丘堆積物が分布する。

(2) 阿蔵山の経緯

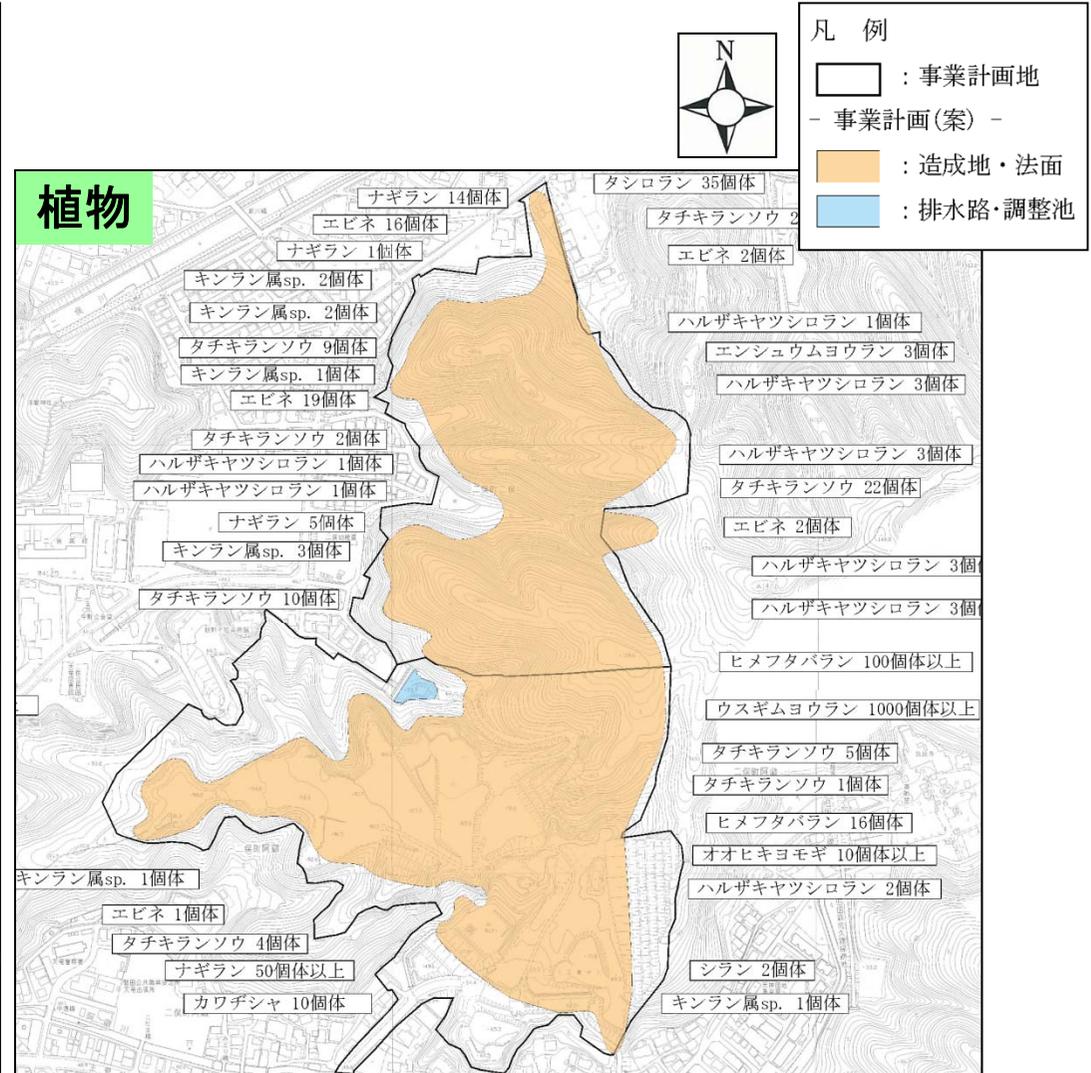
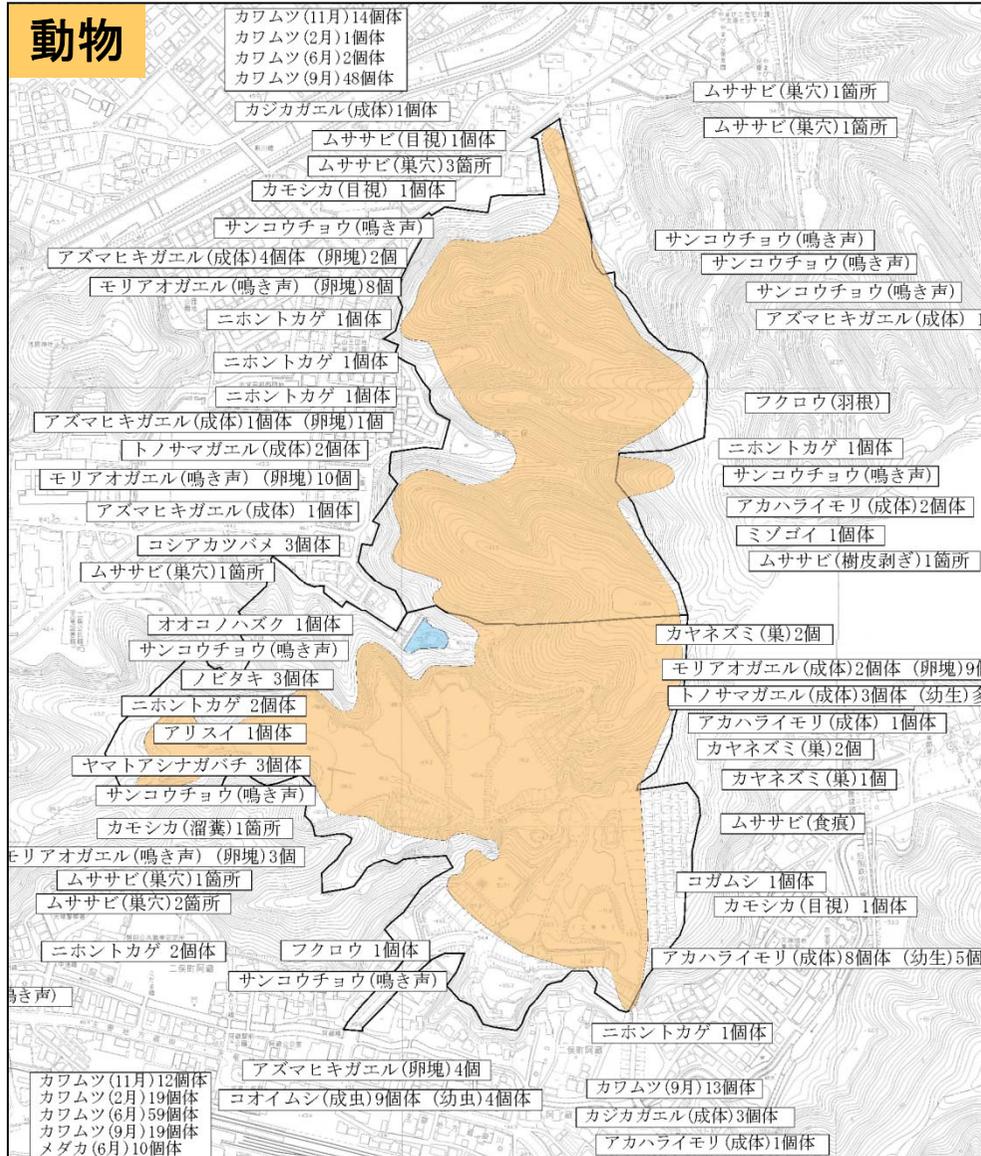
- ①防潮堤に必要な土砂160～180万m³程度を搬出する予定。
- ②事業範囲の南側半分は平成6年度から開発事業の一環として地形改変（土砂掘削）済み。
- ③H25年末から土砂を順次搬出している。
- ④H26年度からは現在森林である北側半分から地形改変（土砂掘削）に着手する。

2 自然環境調査結果概要

調査期間H24. 9～H25. 8

調査結果

- ①県RDBに記載されている重要種が確認された。
- ②植物では特にランの仲間が多く分布する。
- ③旧洗輪場にモリアオガエル、コオイムシ等の集中が確認された。



3 自然環境配慮の基本姿勢

◆基本的な姿勢

(1)防潮堤への土砂搬出のスケジュールを最優先し、可能な範囲で行う。

(2)地形改変範囲内に現存する重要種への対応に主眼を置く。

①自力で移動不可な植物	可能な範囲で公有地内の生息適地に移植を行う。
②自力で移動可能な種類 (昆虫・小動物・鳥類等)	地形改変範囲の後背地には同様な植生豊かな自然環境が連続することから、自発的な移動を期待するものの、旧洗輪場にモリアオガエルなどの卵塊があれば移動不可なものとしてこれを移す。

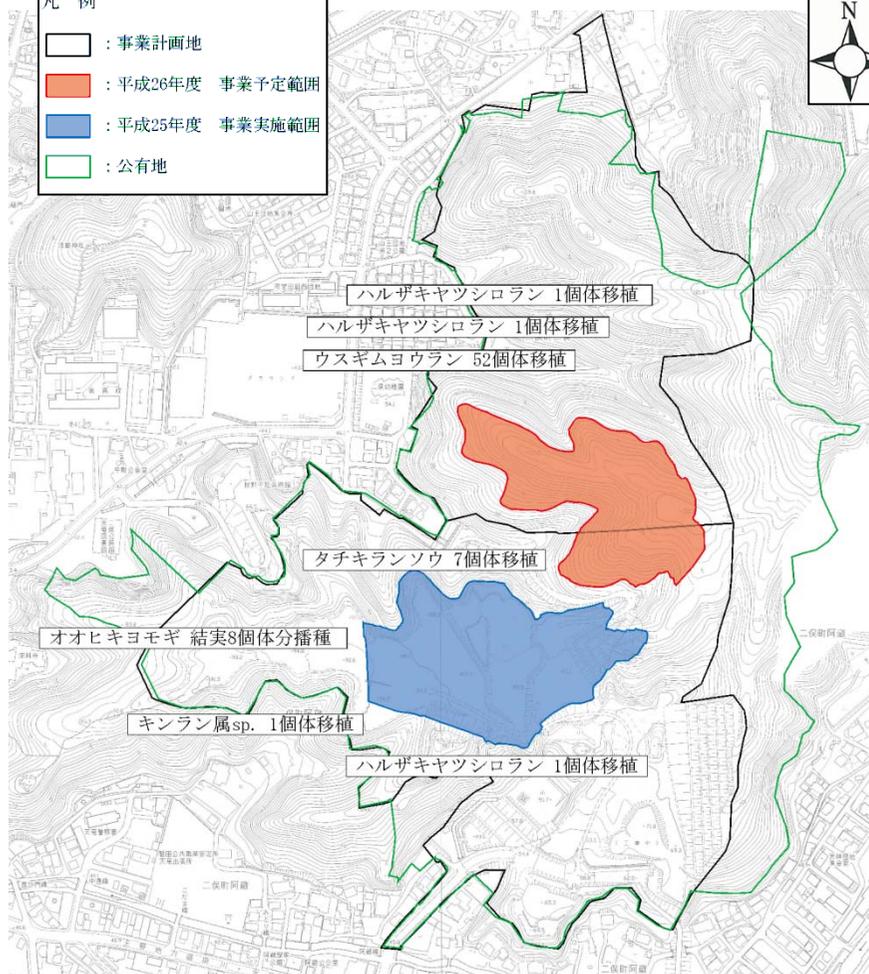
(3)旧洗輪場(池)には多様な生態系が形成されているため、この水環境の代償として事業地内縁辺に人工池を造成する。

◆留意点

移植地や代償池の選出等は、専門家やコンサルの助言・助力をもとに進める。

4 平成26年度の地形改変予定地内に 分布する重要種の移植 (平成26年1月18日実施)

- 凡 例
- : 事業計画地
 - : 平成26年度 事業予定範囲
 - : 平成25年度 事業実施範囲
 - : 公有地



ハルザキヤツシロラン、キンラン属sp、ウスギムヨウラン、タチキランソウ、オオヒキヨモギ、の5種70株以上を先行移植。



今後、事業進捗に合わせ、必要な移植等の実施を予定。